

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101109		
法人名	北商株式会社		
事業所名	グループホームライフケア中央倶楽部		
所在地	札幌市中央区北7条西12丁目11-2		
自己評価作成日	平成25年6月11日	評価結果市町村受理日	平成25年7月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170101109-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にご自分の家に居るような感覚を持っていただけるよう家庭的環境を心掛けています。スタッフは、親しみやすい関係を築けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームライフケア中央倶楽部」は、JR桑園駅から徒歩数分の住宅地に立地している。近隣には、公園や季節の花を楽しむ事が出来る線路高架下の遊歩道があり、季節に応じて散歩を楽しむ事が出来る。日常的な外出や外気浴、外出行事なども積極的に取り入れている。また、いろいろなイベント情報を利用者者に提供して、本人の希望に応じた個別の外出支援も行っている。前回の課題にも積極的に取り組み、殆どの課題が達成されている。職員から出された、設備や家具類の変更などの意見も常に本部に上げられ、利用者が過ごしやすい環境作りが行われている。本部のバックアップ体制も充実しており、パソコンで管理している記録類の書式や入力方法など、職員の仕事の効率が高くなるようなシステム作りが常に考えられている。「札幌市の昭和」という書籍を準備して、懐かしい昔の街並みなどの写真を見ながら会話を交わし、各利用者の以前の生活や現在の思いや意向を把握する機会にするなど、工夫した取り組みが行われている。管理者は、常に職員間で意見交換を行いながらコミュニケーションを深め、一人ひとりの利用者が、自分らしく穏やかな毎日が過ごせるよう向上心を持って職員と共に温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を元に、利用者様への共感を土台として、施設独自のケア目標を決定いたしました。又、理念、ケア目標を毎日復唱したり、運営推進会議で取り上げたりして理解を深めています。	法人共通の基本理念を基に、昨年度は、事業所独自のケア目標を全職員で作成して事務所などに掲示している。基本理念やケア目標は、ミーティングや個々の利用者への対応について話し合う機会に再確認して理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の新年会や役員会、又、近所の小学校で行う行事にも参加しています。行事に参加したり、施設の行事に、保育園や近隣住民を招く等、交流の機会を設ける取り組みを行っています。	法人合同の運動会や食事会の機会に、保育園児が来訪して遊戯などを披露している。昨年度は、町内会からの案内で、七夕の「ろうそく出せ」に参加して子供達と触れ合っている。事業所でバーベキューを行う時などは、近隣に声かけをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の理解を深めていただける議題を取り上げる等しています。また、認知症高齢者110番の家に登録するなどして、啓蒙活動を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、町内会の役員にも出ていただけるようになり、町内会や地域と密着した取り組みを行う事が出来ています。案内状にも出欠の確認だけでなく、欠席でも意見が言えるように切り替えました。又、ご利用者様にも積極的に参加していただいたり、ご家族の来所時にあわせて開催するなどフレキシブルに対応しています。	家族の参加は、諸事情により難しい現状であるが、前回の課題に積極的に取り組み、町内会長や民生委員などの参加を得て、2か月毎に開催している。災害対策や施設理念の理解、外部評価結果報告などを議題に取り上げている。議題を記載した開催案内と議事録も家族に郵送している。	年間の議題を事前に設定して参加者に案内するなど、参加できない方の意見収集につながるような工夫をする事で、更に充実した会議になるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市主催の研修会や連絡会に参加しています。	本部の総務部長が役所とやり取りを行っている。役所の担当者が交代した時も挨拶に出向いて名刺交換をしたり、毎月メールで事業所報告を行い協力関係を築いている。保護課の職員が来訪した時は、管理者が利用者の状況などを伝える事もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、拘束のない介護が行われています。又、外部研修に参加して他施設での取り組みを学んでいます。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含むマニュアルを整備し、年1回は内部研修を行っている。ミーティングや日々のケアの中で事例に沿って対応を確認し、拘束のないケアに取り組んでいる。管理者は、職員が不適切な言葉がけをした時は、その都度指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の人格を最大限尊重し、介護しています。虐待防止の研修を行い、防止法を学んでいます。		

グループホーム ライフケア中央倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者は現在居ませんが、運営推進会議にて、包括センター様より情報をいただき、職員と内部研修をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で説明をした後に、書面にて契約をしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望箱を設置したり、直接電話やお話をお聞きし、日報の苦情相談に打ち込むことで、職員間でも情報を共有し、運営に反映させるよう努力しています。	家族の来訪時や電話などで、利用者の状況を報告しながら意見や要望を聞き取るようにしている。介護計画の見直し時には、日頃の会話から得られた家族の意向などを取り入れるように配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員間では常に意見交換が出来ており、本社とは意見があれば随時電話連絡にて伝えています。	管理者は、日頃から各職員と話しをする機会を設け、相談内容や状況に応じて統括施設長が個別面談を行っている。職員からの提案で、食卓テーブルや椅子などの備品を交換するなど、各職員の意見が本部にスムーズに上がるようなシステムが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得希望者には、シフト調整をしたり、昇給を検討し、支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や区で主催する職員研修に全職員が参加できるようにしています。参加した職員が施設内で伝達研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム管理者連絡会に参加したり、他のグループホームを見学する等、交流を深めています。又、各々職能団体に加入して交流しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には把握しきれない事が多々ありますが、利用開始前にはケアマネージャー等が、ご家族等に聞き取りをして関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族様と良く話し合い、利用開始後は利用状況等をお知らせしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のプランを取り寄せたり、入所前面接で暫定プランを作成し、入所後は何度もアセスメントを細かく行い、必要な支援を提案できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は共に行い、利用者様に役割を持っていただくことで、関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の家族関係に配慮し、面会や電話にて協力を得ています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からのご友人の面会を積極的に受け入れています。	利用者の意向に応じて、デパートなどに買い物に出かけている。昔の札幌の様子が写真で見られる書籍を準備して、写真を見ながら利用者とは話を交わして以前の生活を振り返っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有のスペースを自由に活用できる環境づくりを行い、共に助け合い楽しめるレクや行事を企画運営し、関係作りをサポートしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所されるケースが多いですが、再入所や次の受け入れ先の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に一度のアセスメント以外にも、日々の会話の中で、希望・意向の把握に努めています。	日常の会話や表情、仕草や姿勢などから思いや意向を把握している。日々のケアで得られた新しい情報は、パソコンのフェイスシートに入力して蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活を細かく聞き取りしています。特に家族関係、家計図について力を入れています。日報の中に、情報収集というチェックをつけて、日常の中から把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況を中心に、その日その日の体調を見ながら把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度カンファレンスを行っています。全員そろえるのは難しいので、面会時を利用し聞き取りしています。全員出勤のスタッフミーティング時に確認しあえるようにして共有化しています。	各利用者の担当職員を中心に全員で評価を行い、家族の意向を踏まえながら、3か月毎に計画作成担当者が更新計画を作成している。介護記録には、利用者の姿が詳細に記録されているが、介護計画と連動した記録方法としては不足面もあり、課題が残されている。	日々の記録方法を工夫する事で、介護計画と連動した介護記録になり、日々の記録が介護計画の見直しに更に活かされるように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフミーティング、日報の特記事項を活用し、情報を共有してモニタリングしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の外泊等に加えて、ご家族が泊まりに来るなどについても対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入して、地域を知る事に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人ご家族の希望を尊重しています。	家族や本人と相談して、医療機関を決めている。以前からのかかりつけ医を継続している利用者もおり、家族が受診に同行する時は口頭で連絡したり、医療情報を提供して適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者様の些細な変化も伝え、看護職員が適切な看護支援を出来るように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院状況や退院の受け入れ等医療機関と連絡を取り合い支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについてご家族と事業所、医療機関の三社で協議し、出来る事を共通認識し、努めるように心がけています。	重度化した場合の対応指針を作成して、利用開始時に説明している。利用者の状態変化に応じて、その都度主治医、家族、事業所間で対応を検討し、可能な限り事業所での生活が継続できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えてスタッフ全員が市の救命講習を受講済み、定期的に検討会や勉強会を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で災害対策の議題を話し合い、避難マップを頂く等、避難訓練へ活かしています。又、消防を招いての避難訓練を年2回、自主訓練の記録整備もしています。地域住民の協力を得た夜間想定避難訓練も行っています。	消防署の協力の下で年2回の避難訓練を実施し、地域住民も参加した昼夜の火災を想定した自主訓練を4回行っている。災害備蓄品を整備し、町内会長からは、一時避難場所の提供もうけている。家具類の耐震は行われているが、地震時の対応については今後確認して行く意向である。	地震時の対応について、今後更に確認する意向なので、具体的な事例に沿った対応なども検討されるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に応じた言葉掛けを行い、排泄等の失敗においても他の利用者様に気づかれないように心がけています。利用者様同士のいざこざについては職員が間に入り、トラブルを回避しています。	利用者への声かけは、語調やトーンに気をつけて優しく対応し、排泄の誘導もさりげなく介助をしてプライドに配慮している。個人記録類の入力や文書管理はパソコンを活用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも本人の希望を確認し、支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や天候によって予定も変わるので、その人に合わせた対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室に行ったり、訪問理美容を利用できるように、支援しています。又、化粧なども個々の希望にあわせて対応しています。		

グループホーム ライフケア中央倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立に、利用者様の希望や季節感を取り入れて、美味しく食べていただけるよう努めています。ケアプランの中にも準備や片付けの支援を入れています。	献立は法人本部が作成しているが、利用者が好まない献立は柔軟に変更している。行事食を楽しんだり、外食に出かけている。戸外で焼き肉をするなど、日常の食事にも変化をつけている。お茶を入れたり、野菜の下拵えなどに利用者も参加している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者を利用して、カロリー等を考えていただいています。又、水分チェックも行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア支援で個々の状況に合わせて個別支援しています。毎日口腔ケア体操も行って予防に努めています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日中リハビリパンツを使用するのではなく、夜間のみ使用するケース等、日中は職員の声掛けにて自立に向けての支援を行っています。	排泄のチェックは必要のある利用者のみ行い、本人の状態に合わせた誘導や声かけをして、トイレでの自立排泄を促している。トイレの支援は、周りの利用者に気づかれぬように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や食材などに気を付けています。又、水分管理も注意して行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決まった曜日に行っていますが、本人の希望には柔軟に対応しています。	月曜日と金曜日を入浴日として、全員が週2回入浴出来るように支援している。足浴を毎日している利用者もいる。朝から入りたいとの希望に応じたり、タクティールケアを行うなど、本人が居心地のよい入浴となるように工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	見回り時、温度の確認、本人の希望(カイロ、湯たんぼ等)を支援し、良眠できるように支援しています。又、日中の過ごし方にも注意しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、職員の見守りのもと行っています。服薬セットも2回の確認を行い注意しています。又、受診後は前回と薬が変わっていないかを確認するように努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫煙を無理のない範囲で行ったり、花壇の世話など利用者様の趣味にあったレクを考え、行っています。			

グループホーム ライフケア中央倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じてスタッフ同伴で支援し、近所の公園へ出かけたり、スーパーへ買い物に出かけたりしています。	年間計画に沿った外出行事の他に、人形劇を観に行ったり、買い物に行くなど、気軽に外出を楽しんでいる。天候がよければ散歩に出かけ、近所の紫陽花など季節の花々を楽しんでいる。街中のイルミネーションや雪まつりを見学するなど、冬場も積極的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっている方もいらっしゃいますが、基本的にご自分で管理され、買い物等のときも、スタッフの見守りのもと、ご自分でお支払いをされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要に応じて使用していただいています。、手紙は職員支援のもと、行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は時間に合わせて調節をしています。施設内の温度は快適に過ごせるように適度な温度にしています。夏場などはクーラーのみに頼らず、扇風機を出す事で、季節感を演出しています。	利用者の状態に応じて共用空間の家具の配置等を変更しながら、各利用者がスムーズに活動できるような環境作りを行っている。2階スペースにソファコーナーを設置し、一休みできる空間を作っている。利用者の手作り作品が掲示されていたり、飼っている小鳥は五感刺激の一つとなっている様子が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを開放し、壁には写真、貼り絵などをディスプレイしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを置いていただき、位牌や仏壇などを持って来られている方もいらっしゃいます。	居室にはベッドが備え付けられ、家具等の配置は家族等と相談して支援している。本人の好きな写真やポスターなども飾られている。夜間、トイレに通うのが大変な利用者には、ポータブルトイレを設置して、安楽に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りやさりげない声掛けで自立支援できるよう心がけています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ライフケア中央倶楽部

作成日：平成 25年 7月 22日

市町村受理日：平成 25年 7月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画と介護記録の運動に不足面がある。	日々の記録を工夫して、計画と記録が運動して、介護計画の見直しにさらに活かせるようになる。	介護記録を記入する際、常に利用者のニーズと目標を頭に置いて行う。	3か月
2	35	地震時の対応確認や、地震を想定した訓練を行っていない。	地震発生に備えた訓練を行い、発生時の対応を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生時の避難訓練を行う。 ・地震発生時の避難場所、経路を確認する。 ・マニュアルを作成する。 	3か月
3	4	工夫が足りないので、不参加の人の意見収集につながらず、会議が充実しない。	参加できない人からも意見を収集できる工夫を行い、充実した会議にする。	年間の議題を設定し、参加確認の返信欄に、ただ意見を求めるだけでなく、こちらからも細かい提案などを行い、チェックなどの簡易回答でのアンケート形式で答えられるなど工夫する。	3か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。